

F-REIの事業進捗について（報告）

2025年2月17日

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation



福島国際研究教育機構 (F-REI) (令和5年4月1日設立) の概要



福島国際研究教育機構 (以下「機構」) は、**福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望**となるものとともに、**我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」**を目指す。

- 内閣総理大臣 復興大臣
- 文部科学大臣
- 厚生労働大臣
- 農林水産大臣
- 経済産業大臣
- 環境大臣

主務大臣として共管

7年間の中期目標・中期計画

※機構が長期・安定的に運営できるように必要な予算を確保

福島国際研究教育機構 (F-REI)

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation
(福島復興再生特別措置法に基づく特別の法人)

理事長：山崎光悦 (前金沢大学長)

理事長のリーダーシップの下で、**研究開発、産業化、人材育成等**を一体的に推進

- 研究者にとって魅力的な研究環境 (国際的に卓越した人材確保の必要性を考慮した給与等の水準などを整備)
- 若手・女性研究者の積極的な登用

国内外の優秀な研究者等

将来的には数百名が参画

研究開発

- 福島での研究開発に優位性がある下記5分野で、被災地や世界の課題解決に資する国内外に誇れる研究開発を推進

産業化

- 産学連携体制の構築
- 実証フィールドの積極的な活用
- 戦略的な知的財産マネジメント

人材育成

- 大学院生等
 - 地域の未来を担う若者世代
 - 企業の専門人材等
- に対する人材育成

司令塔

- 既存施設等に横串を刺す協議会
- 研究の加速や総合調整のため、一部既存施設・既存予算を機構へ統合・集約

機構が取り組むテーマ ※新産業創出等研究開発基本計画 (R4.8.26策定)

【①ロボット】

廃炉にも資する高度な遠隔操作ロボットやドローン等の開発、性能評価手法の研究等



ロボット・ドローンを活用した被災者の捜索・救助

【②農林水産業】

農林水産資源の超省力生産・活用による地域循環型経済モデルの実現に向けた実証研究等



農林水産業のスマート化 (農機制御システム)

【③エネルギー】

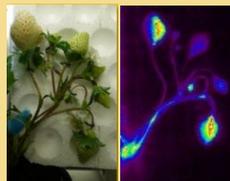
福島を世界におけるカーボンニュートラル先駆けの地にするための技術実証等



カーボンニュートラルの実現 (バイオ・ケミカルプロセスによる化学製品等の製造)

【④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用】

放射線科学に関する基礎基盤研究やR Iの先進的な医療利用・創薬技術開発及び、超大型X線CT装置による放射線産業利用等



放射線イメージング技術の研究開発

【⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信】

自然科学と社会科学の融合を図り、原子力災害からの環境回復、原子力災害に対する備えとしての国際貢献、更には風評払拭等にも貢献する研究開発・情報発信等



復興・再生まちづくりの実践と効果検証研究

<機構及び仮事務所の立地>

円滑な施設整備、周辺環境、広域波及等の観点から、以下に決定

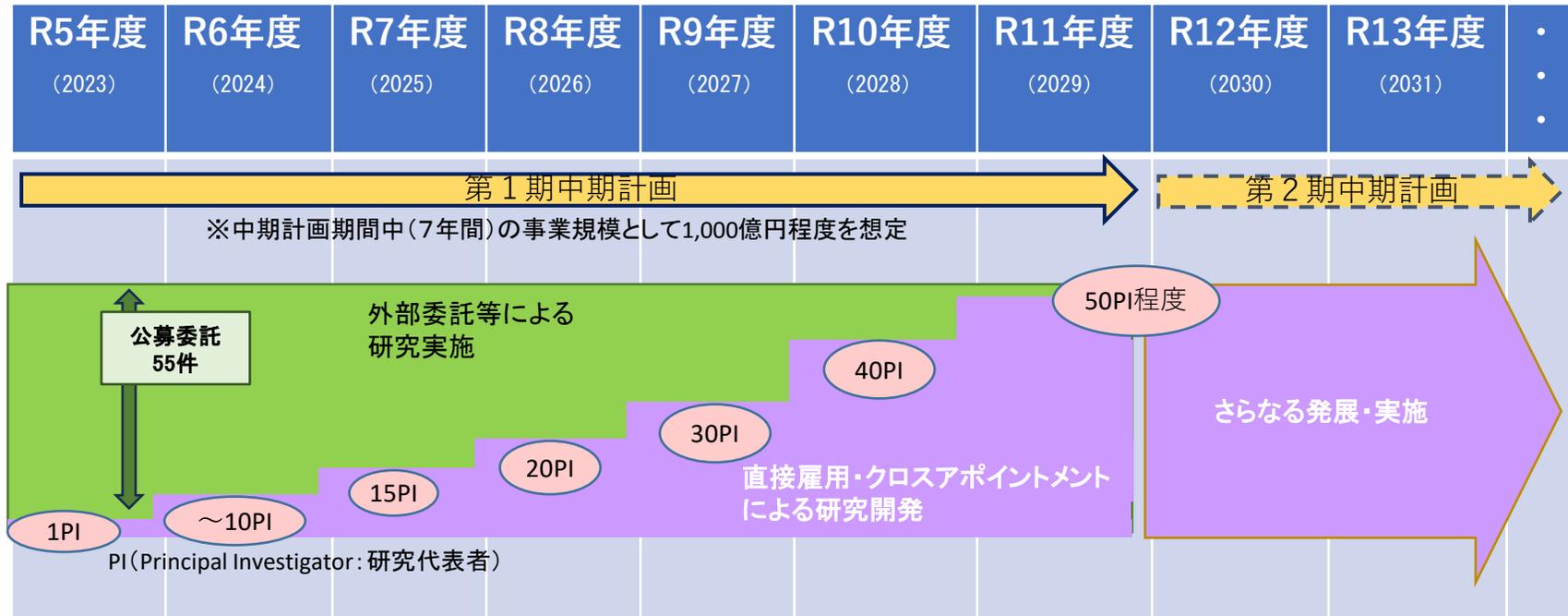
本部：ふれあいセンターなみえ内

本施設：浪江町川添地区

福島国際研究教育機構の設置効果の広域的な波及へ

- 機構を核として、市町村、大学・研究機関、企業・団体等と多様な連携を推進
- 浜通り地域を中心に「世界でここにしかない研究・実証・実装の場」を実現し、国際的に情報発信

＜研究実施体制＞



【今後の取組】



- ・令和6年度以降は、外部委託等による研究開発について、その進捗状況及び成果を踏まえて統廃合しつつ、段階的に直営の研究グループによる研究体制に移行予定。
- ・クロスアポイントメントを積極的に活用しつつ、国内外の優秀な研究者をPIとして選考又は公募により採用する方針。(現行の委託研究とは別テーマの研究も開始予定。)

福島国際研究教育機構（F-REI）の組織体制について



理事長特別顧問

理事長

国際アドバイザー

アドバイザリーボード

監事

森下 信



監事

中西 友子



山崎 光悦



理事

木村 直人

(運営総括)



理事

江村 克己

(研究開発管理)



執行役

野口 康成

(事業企画・産業化)



執行役

大和田 祐二

(人材育成・国際・外部資金)



研究開発部門

分野長等

遠隔操作研究ユニット

自律化・知能化・群制御研究ユニット

燃料電池システム研究ユニット

土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニット

水素エネルギーシステム安全科学ユニット

植物イメージング研究ユニット

放射線基盤技術開発ユニット

放射生態学ユニット

運営管理部門

総務部

総務課

広報担当

人事課

財務課

経営企画課

研究開発推進部

研究開発企画課

研究開発推進第一課

研究開発推進第二課

人材育成推進課

国際・産学官連携推進課

分野長・副分野長

概要

分野長、副分野長は、各分野における研究開発を戦略的に推進していくため、各分野において専門的知見を有する外部の研究者を分野長及び副分野長として任命しているもの。

➤ 分野長

担当する分野における研究課題を具体化し、研究の進め方等に係る調整・管理を行い、また、将来のF-REIの研究グループの確保に向けた調整など、研究に関する総合的な業務を行う。

➤ 副分野長

副分野長は分野長を補佐し、また、分野長とは異なる専門的知見に基づく研究課題の調整等を行う。

ロボット		【分野長】野波 健蔵 (のなみ けんぞう) 一般社団法人日本ドローンコンソーシアム 会長
		【副分野長】松野 文俊 (まつの ふみとし) 大阪工業大学工学部電子情報システム工学科 特任教授
農林水産業		【分野長】佐々木 昭博 (ささき あきひろ) 東京農業大学総合研究所 参与 (客員教授)
		【副分野長】荒尾 知人 (あらお ともひと) 元農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター 所長
エネルギー		【分野長】矢部 彰 (やべ あきら) 新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センター フェロー
		【副分野長】秋田 調 (あきた しらべ) 一般社団法人電力中央研究所 名誉特別顧問
		【副分野長】錦谷 禎範 (にしきたに よしのり) 早稲田大学ナノライフ創新研究機構ナノテクノロジー研究所 招聘研究員
放射線科学・創薬医療		【分野長】片岡 一則 (かたおか かずのり) 公益財団法人川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター長
		【副分野長】山下 俊一 (やました しゅんいち) 福島県立医科大学 副学長
		【副分野長】茅野 政道 (ちの まさみち) 量子科学技術研究開発機構 前理事
		【副分野長】絹谷 清剛 (きぬや せいご) 金沢大学 副学長
原子力災害に関するデータや知見の集積・発信		【副分野長】大原 利真 (おおはら としまさ) 一般社団法人日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター 所長

ユニットリーダー

分野	ユニット名	ユニットリーダー () は兼務先
ロボット分野	遠隔操作研究ユニット 実際に触る感覚（力触覚）を伝送する技術を活用し、過酷環境において、実働に供与できる作業効率と信頼性を高めた遠隔操作技術の研究開発を行う	大西 公平（慶應義塾大学特任教授） 東京大学大学院修了（工学博士） 慶應義塾大学理工学部にて教育と研究に従事 同大ハプティクス研究センターセンター長 同大新川崎先端研究教育連携スクエア特任教授 
	自律化・知能化・群制御研究ユニット ロボットの自律性を高度化するため、AI等を用いた知能化、複数のロボットを協調的に制御する技術の研究開発を行う	富塚 誠義（カリフォルニア大学バークレー校教授） 慶應義塾大学大学院修士課程修了 マサチューセッツ工科大学にてPhD（工学博士）を取得 カリフォルニア大学バークレー校にて教育と研究に従事 
	燃料電池システム研究ユニット 長時間飛行・高ペイロードを実現し、かつカーボンニュートラルの実現にも貢献する、燃料電池システムを用いた小型ドローンの研究開発を行う	飯山 明裕（山梨大学特任教授） 東京大学大学院修了（工学博士） 日産自動車株式会社総合研究所燃料電池研究所長として燃料電池の開発に従事 現在は山梨大学大学院総合研究部工学域物質科学系（水素・燃料電池ナノ材料研究センター）特任教授として教育と研究に従事 同大水素・燃料電池ナノ材料研究センター長 
農林水産業分野	土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニット 土壌環境と植物栄養の相互の影響を多面的に探求し、作物の収量拡大と農業の継続性向上を実現する	二瓶 直登（福島大学教授） 東北大学大学院博士前期課程修了 福島県農業総合センターに勤務し、東京大学大学院農学生命科学研究科修了（農学博士） 現在は福島大学食農学類にて教育と研究に従事 

※ユニットリーダーの下にユニットサブリーダー、研究員等を今後配置予定

ユニットリーダー

分野	ユニット名	ユニットリーダー () は兼務先
エネルギー分野	水素エネルギーシステム安全科学ユニット 地産地消の水素エネルギーシステムを構築し、社会実装を目指すためのリスク評価を行うことにより、水素エネルギーシステムの安全確保に必要な研究開発等を行う。	迫田 直也 (九州大学大学院工学研究院機械工学部門准教授) 慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了 (博士(工学)) 九州大学水素材料先端科学研究センター 物性研究部門長 九州大学大学院工学研究院機械工学部門にて教育と研究に従事 
放射線科学・創薬医療分野	植物イメージング研究ユニット 生体内の物質動態を捉えて植物の栄養生理の理解を深め、農作物の生産性向上・高付加価値化に資する放射線を活用したイメージング研究を展開する	河地 有木 (量子科学技術研究開発機構 上席研究員/プロジェクトリーダー) 筑波大学大学院物理研究科修了 (博士(理学)) 国立循環器病センター研究所、日本原子力研究開発機構等を経て、現在は国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構にて量子バイオ基盤研究部のRIイメージングプロジェクトのリーダー 
	放射線基盤技術開発ユニット 新規の放射線検出、分析技術など、放射線の計測・イメージングの基盤技術を高度化し、独自性の高い技術を開発する	高橋 浩之 (東京大学教授) 東京大学大学院工学系研究科修了 (博士(工学)) 東京大学教授 大学院工学系研究科 附属総合研究機構プロジェクト部門にて教育と研究に従事 
原子力災害に関するデータ・知見の集積・発信分野	放射生態学ユニット 放射性物質の植物や淡水魚等への移行や蓄積に関する室内実証実験による現象の理解を踏まえ、これらに関する因子の探索から、移行や蓄積量の低減化の方策について検討を行う。	青野 辰雄 (専任) 近畿大学大学院化学研究科修了 (理学博士) 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線総合研究所福島再生支援研究部にて環境動態研究に従事 

※ユニットリーダーの下にユニットサブリーダー、研究員等を今後配置予定

F-REIにおける研究開発を、福島をはじめ東北の復興に結び付けるためには、広く企業や関係機関を巻き込みながら、実用化や新産業創出に着実に繋げていく。

【昨年度までの取組】

➤ 東邦銀行との包括連携協力（R6.1.25）

・基本合意書に基づいて、互恵的な連携協力を進め、F-REIの認知度向上、地元企業とのネットワーク構築、研究成果の社会実装などを推進する。

・(株)東邦銀行が持っている地元企業との強力なネットワークを活かし、まずは双方に関する情報発信を積極的に行い、長期的な観点では研究成果を踏まえた事業化を進めていくなど、F-REIの取組がより地元に貢献できるように取り組みたい。



➤ 産学官ネットワーク・セミナー（R5.10.12）

東北の復興を見据え、東北の企業他を巻き込んだ産学官の連携体制構築の機会とするため、F-REIとの連携を含めた産学官連携や産業化について、トークセッション等を実施。



➤ 市町村座談会

市町村座談会は、研究開発・産業化・人材育成の取組における広域連携体制の構築を図るため、市町村や住民、企業・団体等、多様な主体と対話する場として実施しているもの。令和5年度は浜通り地域等15市町村において実施。



【今年度以降の取組】

➤ 産学官ネットワーク・セミナー

F-REIで取組む研究内容等の発信や、企業からの産学連携事例等発表を通じて産学連携に向けた企業等とのネットワークを構築。
(令和7年3月17日開催を予定)

➤ 市町村座談会

○浜通り地域 2回

市町村別ではなくテーマ別（ロボット・ドローン、農林水産業等）での開催。

- ・令和6年12月18日 ロボット分野（南相馬市）
- ・令和7年3月 農林水産業分野（予定）

○中通り・会津地方 4回

- ・令和6年 7月18日 県中地域（郡山市）
- ・令和6年10月15日 県北地域（福島市）
- ・令和6年11月18日 会津地域（会津若松市）
- ・令和7年 2月 5日 県南地域（白河市）



➤ 研究実証フィールドの確保、地域企業とのマッチング

・他の地域ではできない実証等を可能とするため、大胆な規制緩和を推進し未利用地等も活用しながら、実証フィールドを確保する。

・企業誘致やビジネスマッチング、起業・創業支援などの取組とも連携して機構発ベンチャー企業等に限らず企業等と緊密に連携して共同研究や技術移転等を実施し、産業集積の形成に向けた取組を推進していく。

イノベーションを創出し、新たな産業基盤の構築を通じて、立地地域等をはじめとする福島や東北の創造的復興を実現し、ひいては世界の課題解決を目指すために、立地地域等において様々な分野の研究者や技術者を育成する体制を構築する。

【昨年度までの取組】

➤ F-REIトップセミナー

福島県内の大学、高等専門学校、高等学校の学生・生徒を対象に、最先端の科学技術の魅力と可能性、学ぶことの重要性と未来をどう築くか、F-REIの役割と将来像などをテーマに、F-REIトップ陣によるセミナーを開催。令和5年度は16回実施。



➤ エフレイ・サイエンスラボ

F-REIの研究者の指導の下、高専生の企画による小中学生向けの学びの場を開催。（霧箱による放射線可視化と身の回りのものの放射線計測等の実験実習）（R6.1.8）



➤ 東北大学との連携大学院（連携講座）の設置

東北大学医学系研究科と放射生態学ユニット内への連携講座（放射線環境生体医学連携講座）設置に関する協定を締結。（R6.3.8）



➤ その他

- ・体験学習会（科学実験教室（R5.10.15））
- ・専門教育・リカレント教育（現地訪問型研修（R6.3.28））
- ・出前授業（福島高専（R5.10.26）、早稲田大学（R5.11.15））など



【今年度以降の取組】

➤ F-REIトップセミナー

・**継続して実施。**（福島大学（R6.5.13）、会津大学（R6.5.28）、福島工業高等専門学校（R6.6.10、11）、福島県立医科大学（R6.6.19））のF-REI協議会の構成機関について開催。併せて、県外版トップセミナーとして、山形大学（R6.10.17）で実施。

・**県内高校向けには、F-REI研究者がSTEAM教育等の出前授業をイノベ機構の事業を通じて実施中。**（相馬高校（R6.7.2、2件）、原町高校（R6.7.5）、磐城高校（R6.8.2）、小高産業技術高校（R6.11.18、R7.1.22））。（10回程度）



➤ 連携大学院制度の拡充

講座設置済みの東北大（医学系）では、**学生受け入れ・指導に向け募集中。**今後、研究チームの編成状況に併せて、近隣のみならず様々な大学との連携を目指し検討を行っていく。



➤ F-REIサイエンスラボ

小中学生の親子を対象に、「**ドローンプログラミング教室**（WRSプレ大会の宣伝を兼ねる）」（R6.8.9）と「**親子でワクワク科学実験**」（R6.8.10）



➤ サマースクール

高校・大学生を対象に、**将来の研究者となるための研究体験**を行うサマースクールについて、今年度は、他機関（JAXA、AIST、QST、OIST等）の実施状況調査等と一部試行（ふくしま未来創造プログラム（R6.12.24-25））を実施。

➤ その他

- ・専門人材教育：**地元企業の技術実装のための専門人材教育**を実施する。
- ・その他、各種依頼に基づいた講演（Joshikai（R6.7.28））、出前授業等を実施予定。（福島医大（R6.7.10）、東北大学（R6.10.24）、福島高専（R6.11.7）、弘前大学（R6.11.12）、独協医科大学（R6.12.10）、秋田大学（R7.1.23）で出前講義を実施）



小中学生やその親子を対象に、科学技術に触れる多様な機会（体験学習会）を提供し、地域の未来を担う若者世代の人材育成を図るため実施しているもの。

World Robot Summit 2025 F-REIサイエンスラボ「ドローンプログラミング教室」

○目的：浜通り地域を中心とした小中学生を対象として、WRS2025F-REI過酷環境チャレンジにあわせて、体験型のロボティクス教育の機会を作り、ロボットエンジニア・研究者の楽しさを伝えるもの。今年度は科学技術、ロボットエンジニア・研究者への興味を向上させるため、ドローンプログラミング教室を試行的に実施。

- ▶ 開催日：令和6年8月9日（金）
- ▶ 会場：福島ロボットテストフィールド
- ▶ 参加者：小学生19名
- ▶ 内容：

<座学> ドローン活用用途、仕組み、構造、プログラミングに関する説明
<体験> プログラミング、ドローン操作体験

エフレイ・QSTサイエンスラボ － 夏休み応援企画、親子でワクワク科学実験 －

○目的：県内外の小学校4～6年生の親子を対象に、夏休みの思い出づくりや自由研究に役立ててもらおうと、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）と共同で科学実験教室を開催。

後援：復興庁、文部科学省、福島県、福島県教育委員会、いわき市、いわき市教育委員会、
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）、国立研究開発法人国立環境研究所（NIES）

- ▶ 開催日：令和6年8月10日（土）
- ▶ 会場：福島工業高等専門学校（福島高専）
- ▶ 参加者：県内外の小学校4～6年生とその保護者33組（65名）
- ▶ 指導者：福島高専生12名（科学コミュニケーター本田隆行氏がアテンド）
- ▶ 内容：ドローンのプログラミング、レゴでソーラーカー作り、霧箱作成と放射線の観察・測定実験
※保護者向けのサイエンストーク（座談会）も同時開催




World Robot Summit 2025
F-REIサイエンスラボ

夏休み
ドローンプログラミング教室
2024

ドローンプログラミングを通して、
楽しみながら学ぶ体験型ロボット教室
を実施します。

※体験型ロボット教室は初めての方も大丈夫です。

集まれ！ 未来のロボット研究者・エンジニア！

参加費無料（参加予約：先着20名）

2024.8.9 13:00-16:40（受付12:30-）

会場 福島ロボットテストフィールド（福島県いわき市）

対象 小学生（5年生以上推奨）
※参加費以下の作品、申込書をご用意いただけます。

PROGRAM (座学) ACCESS (その他)

1. ドローン活用用途、仕組み、構造、プログラミングに関する説明
2. ドローン操作体験

1. 参加費無料（参加予約：先着20名）
2. 参加費以下の作品、申込書をご用意いただけます。

主催 福島県教育委員会、福島県立いわき高等学校、福島県立いわき工業高等学校、福島県立いわき女子高等学校、福島県立いわき女子高等学校、福島県立いわき女子高等学校

協賛 福島県教育委員会、福島県立いわき高等学校、福島県立いわき工業高等学校、福島県立いわき女子高等学校、福島県立いわき女子高等学校、福島県立いわき女子高等学校

お問い合わせ 0246-22-1111（受付時間：平日9:00～17:00）

申込締切 2024年8月2日（金）15:00

申込先着順

申込方法 申込書と作品写真を用意し、F-REI事務局までお送りください。

申込書ダウンロード [こちら](#)

作品写真撮影方法 [こちら](#)

申込書と作品写真を送る方法 [こちら](#)

お問い合わせ [こちら](#)

QRコード




エフレイ・QSTサイエンスラボ
夏休み応援企画

親子でワクワク科学実験

科学コミュニケーターと福島県内の学生たちが学びをアシスト

参加者募集！

2024.8.10（土）
10:00～16:00

① ドローンのプログラミング体験
② レゴでソーラーカー作り体験
③ 霧箱作成と放射線の観察実験

※ 霧箱は放射線を検出する装置で、放射線の種類や強さを測定することができます。

会場 福島工業高等専門学校（福島県いわき市）

対象者 小学校4～6年生とその保護者
※ 参加費以下の作品、申込書をご用意いただけます。

参加費 無料（参加予約：先着20名）

申込締切 2024年8月2日（金）15:00

申込先着順

申込方法 申込書と作品写真を用意し、エフレイ事務局までお送りください。

申込書ダウンロード [こちら](#)

作品写真撮影方法 [こちら](#)

申込書と作品写真を送る方法 [こちら](#)

お問い合わせ [こちら](#)

QRコード

F-REIのリーダーシップの下で、既存施設や大学等の各機関が福島において取り組む新たな産業の創出等に資する研究開発に関する計画等を持ち寄り、協議会での議論を通じて、研究開発力を結集するための目標やビジョンの共有を図る。

【昨年度までの取組】

➤ F-REI協議会の組織・運営

各WGでの議論・決定等を踏まえた、新産業創出等研究開発施策の実施に関する司令塔機能の発揮を図る。7府省庁、福島県、浜通り地域等15市町村、大学、研究機関等の35の構成員が参画。

- ・第1回協議会 於:大熊町 (R5.5.10)
- ・第1回広域連携WG 於:楡葉町 (R5.9.27)
- ・第1回研究開発等WG (オンライン) (R5.12.8)
- ・第2回協議会 於:富岡町 (R6.1.12)



➤ 連携協力に関する基本合意書等の締結

研究開発等のF-REIのミッションを円滑に進めるとともに、F-REI設置の効果を広域的に波及させるため、研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた協定を締結。令和5年度は9つの機関と締結。

福島高専 (R5.4.1)、福島県立医大 (R5.4.5)、いわき市 (R5.4.15)、福島大学 (R5.5.17)、浪江町 (R5.5.29)、会津大学 (R5.5.30)、南相馬市 (R5.9.1)、東邦銀行 (R6.1.25)、東北大学 (R6.3.8)



【今年度以降の取組】

➤ F-REI協議会の組織・運営

第2回広域連携WG (R6.7.2)、第3回協議会 (R6.8.5)、第2回研究開発等WG (R7.1.9)を開催。



➤ 連携協力に関する基本合意書等の締結

今年度、新たに5件以上締結することを目指す。



(東北をはじめ広く国内や海外の機関も含む)

- ・学校法人昌平賢 (東日本国際大学等) (R6.6.7) と基本合意書を締結。
- ・福島県・イノベ機構 (R6.6.14) と三者包括連携協定をそれぞれ締結。
- ・量子科学技術研究開発機構 (QST) (R6.7.23) と包括協定を締結。
- ・米国パシフィック・ノースウェスト国立研究所 (PNNL) (R6.10.3) と連携及び協力に係る覚書を締結。
- ・東京海上日動火災保険株式会社 (R7.2.4) と基本合意書を締結。



➤ 放射性物質の環境動態研究に関する統合

- ・日本原子力研究開発機構 (JAEA) 廃炉環境国際共同研究センター
 - ・国立環境研究所 (NIES) 福島地域協働研究拠点
- ⇒R7年4月の統合にむけて、基本協定等を締結。(R6.7.8)



➤ 福島ロボットテストフィールド (RTF) の統合

ロボット分野を中心とするF-REIの研究開発、産業化、人材育成に関する機能をRTFに付加することにより、RTFの更なる発展・活用を目指す。

⇒R7年4月の統合にむけて、基本合意書を締結。(R6.6.14)



連携協力に関する基本合意書（MOU）等の締結

研究開発等の機構のミッションを円滑に進めるとともに、機構設置の効果を広域的に波及させるため、福島や全国の大学、教育機関、研究機関、企業、市町村等との効果的な広域連携を進めることとし、基本合意書（MOU）や包括連携協定等を締結。

連携協力に関する基本合意書等の概要

○内容

研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた協定を締結。

○締結先一覧

締結日	締結先
令和5年4月1日	福島高専
令和5年4月5日	福島県立医科大学
令和5年4月15日	いわき市
令和5年5月17日	福島大学
令和5年5月29日	浪江町
令和5年5月30日	会津大学
令和5年9月1日	南相馬市
令和6年1月25日	株式会社東邦銀行
令和6年3月8日	東北大学
令和6年6月7日	学校法人昌平覚（東日本国際大学など）
令和6年6月14日	福島県（福島ロボットテストフィールドの統合に関して）
令和6年6月14日	福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構
令和6年7月8日	福島県、JAEA、NIES（環境創造センターにおける連携協力に関して）
令和6年7月23日	量子科学技術研究開発機構
令和6年10月3日	米国パシフィック・ノースウェスト国立研究所（PNNL）
令和7年2月4日	東京海上日動火災保険株式会社



福島県、イノベ機構との連携協力



PNNLとの連携協力